

第2回 一宮川流域治水協議会 茂原市部会の実施状況等について (茂原市)

1. 茂原市部会
2. 雨水貯留浸透対策
3. ソフト対策

1. 茂原市部会について

(1) 設置目的

令和元年10月25日の大雨をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、一宮川流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策である「流域治水」を令和11年度末迄に計画的に推進するため、茂原市における具体的な対策に関する協議・情報共有を行うことを目的とする。

(2) 部会構成員

一宮川流域治水協議会 茂原市部会 規約のとおり

(3) 第1回部会

1) 開催日時

令和3年5月24日(月) 15時～17時

2) 会議内容

- ・「茂原市内における流域治水対策」等について説明
- ・茂原市における具体的な取り組み(対策)について協議

3) 合意内容

- ・田んぼダムの試験施工
- ・既存ため池、ゴルフ場等と連携した雨水貯留の検討
- ・防災教育の検討

2. 雨水貯留浸透対策

① 茂原市雨水貯留施設等設置工事補助金

○ 令和2年度実績

(貯留槽)

150L × 4基 = 貯留量 600L

250L × 2基 = 貯留量 500L

300L × 1基 = 貯留量 300L

合計 7基 貯留量1,400L

(浸透柵)

2基 ー

○ 平成26～令和2年度実績

(貯留槽)

40基 = 貯留量 8,297L

(浸透柵)

9基 ー

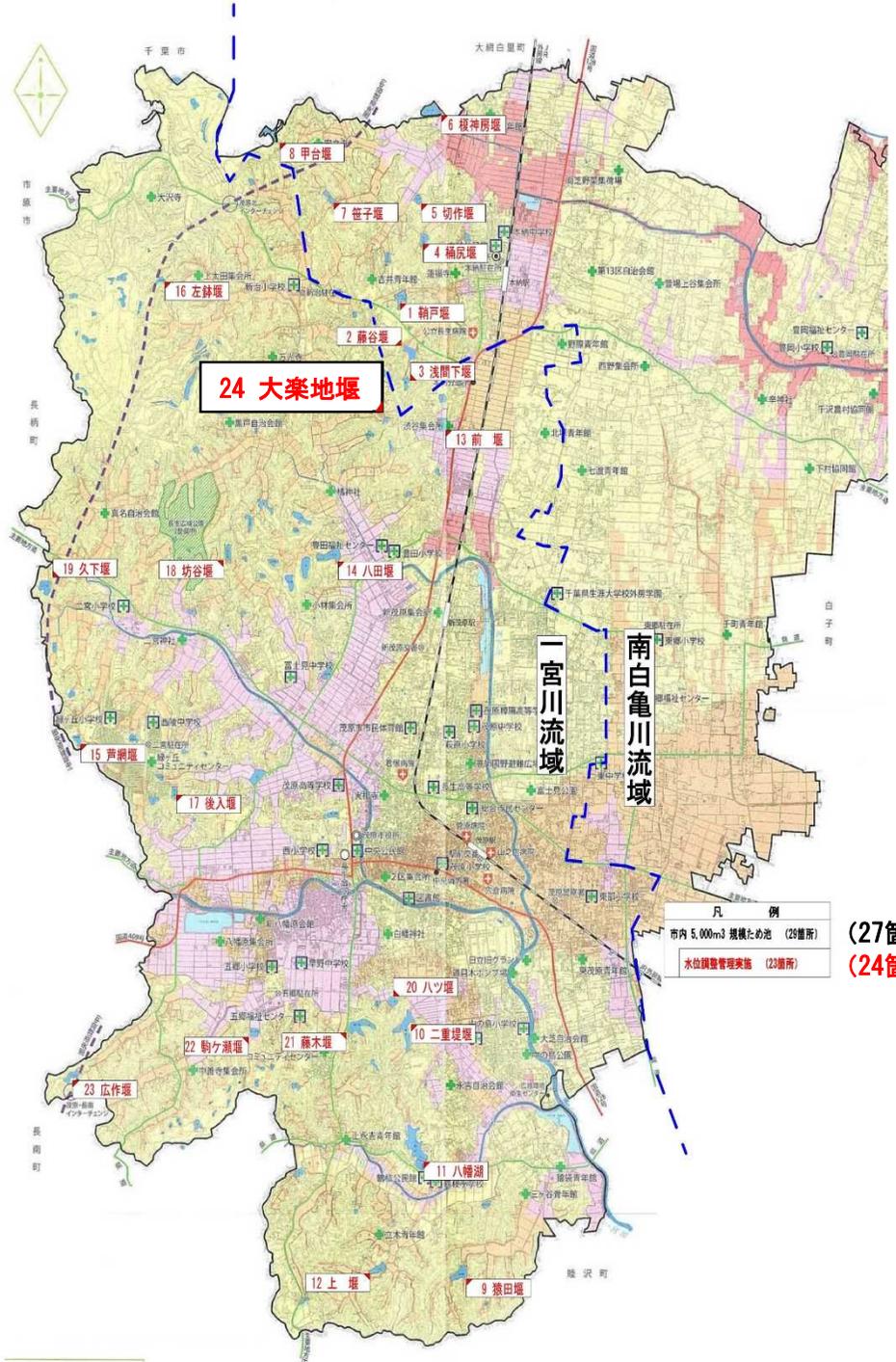
茂原市雨水貯留施設等設置工事補助金交付要綱（概要）

雨水貯留槽及び雨水浸透柵について、1建築物当たりの対象施設数はそれぞれ2基を限度とし、材料費と工事費の合計を対象経費として、その2分の1の額を、1基当たり雨水貯留槽25,000円、雨水浸透柵10,000円を限度額として助成する。
(平成26年10月1日施行)

- ・ 雨水貯留槽：雨とい取付型の貯留容量が150リットル以上で排水機能がある施設
- ・ 雨水浸透柵：内径35cm以上かつ深さ50cm以上の施設

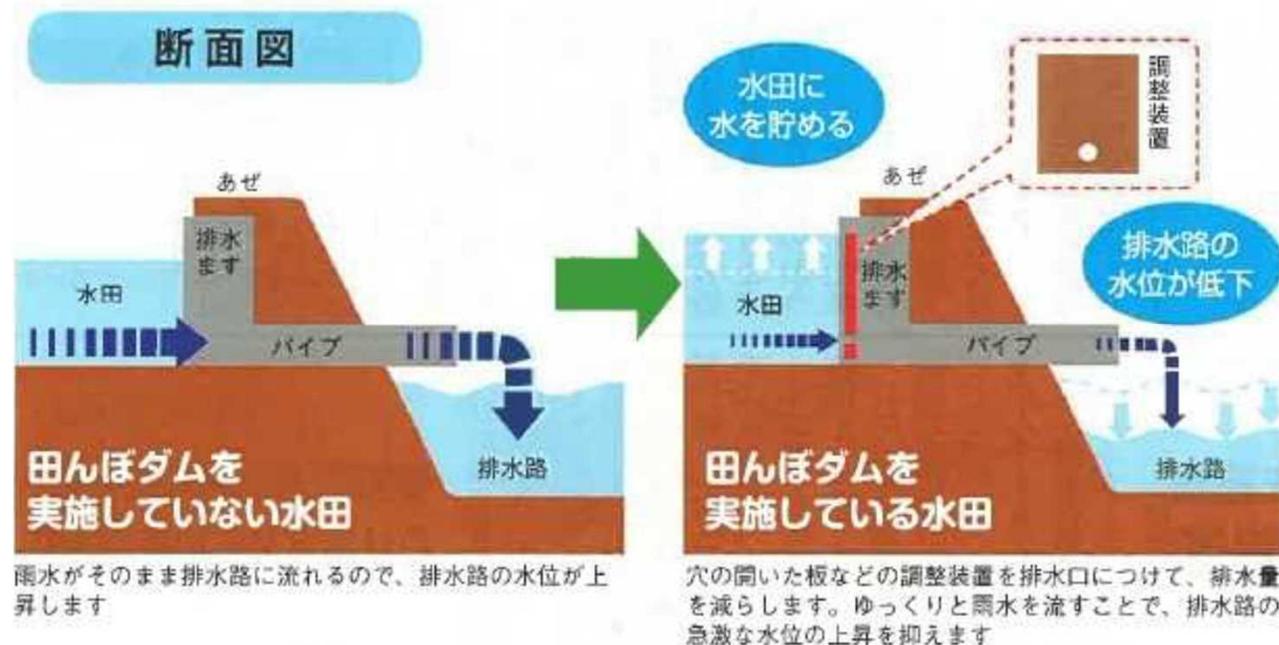


②ため池貯留



③ 田んぼダム

- ・ 田んぼダムとは、水田の持つ水を貯める力を活用して、大雨が降っても浸水被害を軽減する取り組みである。
- ・ 田んぼダムに取り組んだ水田は、豪雨の際に一時的に雨水を貯め、時間をかけて排水する。その結果、排水路の急激な水位上昇を防ぎ、排水路が溢れることによる浸水被害を軽減することができる。
- ・ 田んぼダムによって、転作田で作られている農産物や周辺の畑作を水害から守るだけでなく、下流の市街地の浸水被害を軽減することができる。



③ 田んぼダム

- 平成26年度から農家組合長会議でチラシを配布し、地域ぐるみで協力をお願いしている。

- 現在は、3団体・4地域で水田への貯水が行われている。

(計画面積実施面積)

※柴名・上太田環境保全対策協議会	2,030a	内2,030a	
国府関環境保全会	3,349a	内1,674a	
早野地域資源保全会	2,240a	内1,000a	貯水量
	計7,619a	内4,704a	
			→47ha → 4.7万 ³ m



③田んぼダム（試験施工）

（１）試験施工の目的

田んぼダムについては、茂原市内でも先進事例がみられるが、今後、茂原市全体、流域全体に展開を図るにあたり、「治水効果」及び「田んぼへの影響」を検証する必要があるため、関係者の協力をいただきながら、試験施工を行う。

（２）試験施工時期

令和３年８月～１１月（予定）

（３）観測項目

① 治水効果

- ・ 雨量
- ・ 田んぼの水位
- ・ 排水路の流量

② 田んぼへの影響

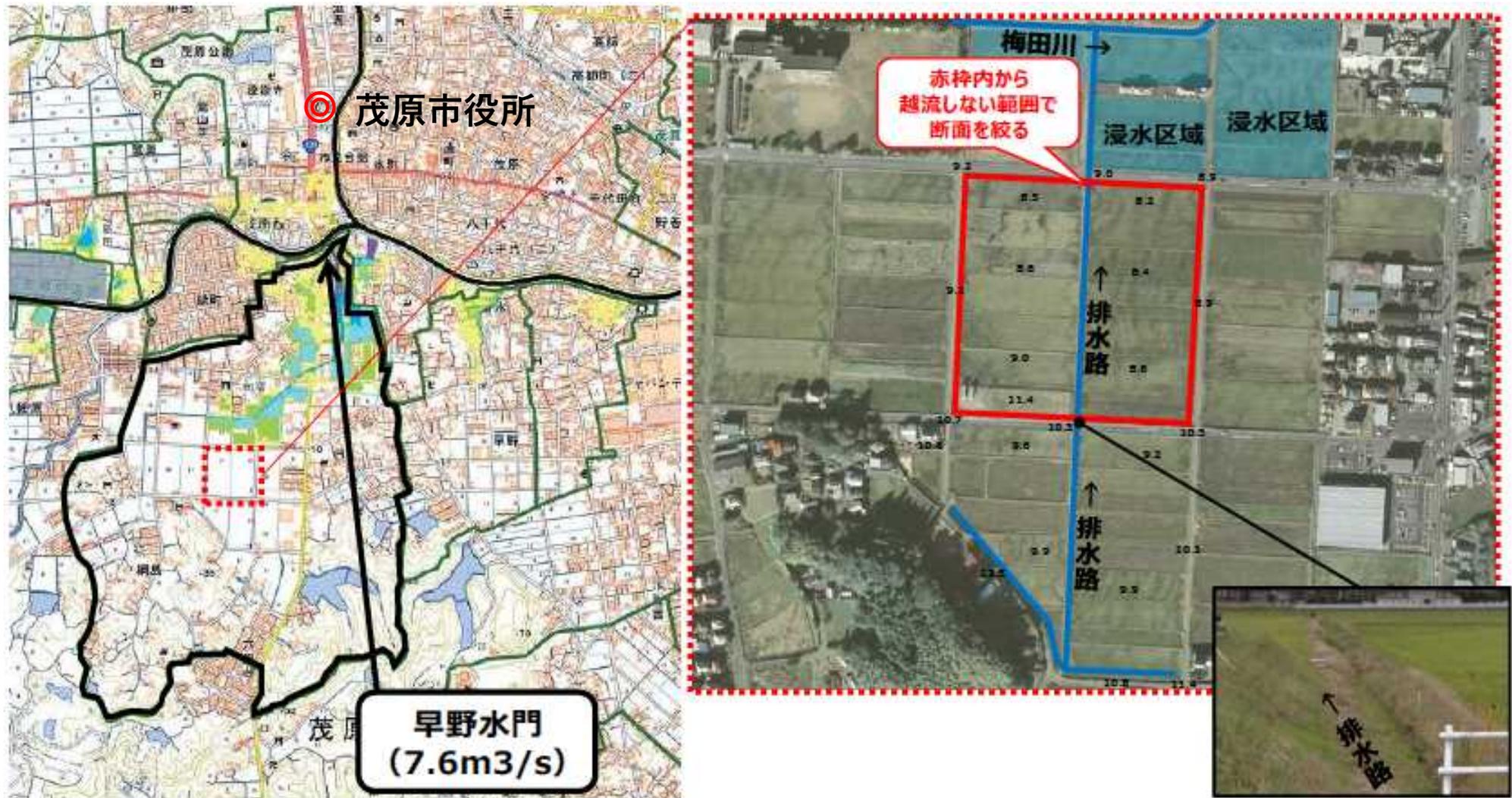
- ・ 畦畔の状況
 - ・ ゴミ等の状況
- 等

田んぼダム試験施工箇所 全景



③田んぼダム（試験施工）

- 田んぼダムの取組意義が高い箇所として、河川整備後も内水氾濫が顕著に残余すると想定される早野水門集水区域（以下、「早野内水区」という。）をモデル地区とする。
- 試験施工を行う田んぼは、以下の赤枠内（農区単位）とする。



③ 田んぼダム（試験施工）

- ・ オンサイト型田んぼダム（田んぼ1枚で行う）と、
オフサイト型田んぼダム（農区単位で行う）を試験施工する。



堰板設置状況



③田んぼダム 展開方針（案）

- ・以下のとおり、試験施工などを踏まえ効果や問題点を検証しながら、段階的に実施範囲を拡大する。

令和3年度 関係者の合意を得て、
モデル地区での流域対策案を作成

- (1) モデル地区での試験施工（田んぼダムの流出応答、畦畔への影響などを確認）
- (2) 解析モデルの構築・検証（試験施工でキャリブレーション）
- (3) モデル地区での流域対策案の作成、想定される効果の算出
（田んぼダム以外の対策も含めて検討）



令和4年度 関係者の合意を得て、茂原市での流域対策案※を作成

- (1) モデル地区での試行、検証
- (2) 茂原市での流域対策案の作成、想定される効果の算出

※ 並行して、他市町村でも対策を推進



令和5年度 関係者の合意を得て、流域全域に展開

3. ソフト対策

○土のう配備

令和3年度配備数：22,000袋

配布場所：茂原市役所（茂原公園第2駐車場） 他3箇所

○メール等による防災情報提供

防災情報及び防犯情報の登録者にメールでの情報提供を実施。

また、平成26年度からメールを使えない人への対応として、高齢者や視覚・聴覚障害を持つ人を対象に、メールの文面をそのままファックスまたは音声に変換して自宅の電話・ファックスに流すサービスを実施。

○防災行政無線テレホンサービス

防災無線の放送内容を電話で聞くことが可能。平成30年4月からは、市内固定電話に加え、携帯電話からも通話料無料で聞くことが可能。 電話：0120-438-119

3. ソフト対策

○防災行政無線戸別受信機の有償貸与

災害時の情報伝達手段として、更なる充実を図るため、令和2年度から水害警戒区域や土砂災害警戒区域の方を優先して、戸別受信機の有償貸与を実施。

○洪水ハザードマップの作成・配布

令和2年5月に作成・配布